

## 実践 3

### 学級の中に互いに認め合う雰囲気醸成するための取組 ～他者理解を中心にした構成的グループエンカウターの実践を通して～

#### 1 学級集団の状況（中学校3年生 男子20人，女子14人）

本学級はややけじめに欠けるものの，給食や清掃の当番活動の時間を意識して行動したり，リーダーの指示を聞いて早く静かに集合整列したりしようとしている。今年，3年生になってやる気が感じられた学級であるが，今までこの学年が抱えてきた問題はかなり多い。

小学校中学年より，いわゆる教員の指導が行き届かない状況となった。それは中学校2年が終了するまで続いた。中学校入学式の最初の学活から静かに話が聞けない状況であり，学年全体が問題行動の発生により，落ち着かない状況があった。今年は昨年までの教員集団のねばり強い指導の成果が出て，いじめなどの問題行動が減ってきており，日々の生活にもようやく落ち着きが見られるようになった。

現在，本学級の抱える問題としては以下の点が挙げられる。

##### (1) 対応が難しい生徒

小学校時代に担任とよい関係を結べないことがきっかけとなり教員不振に陥った生徒A男がいる。教員の観察からは，彼はユーモアがあって学級の中では目立ちたい存在であり，友人に対する大きな影響力をもっている。また，集団で取り組む行事が苦手でマイナスの発言をする場面もある。問題行動があった場合には強い被害者意識のために心を閉ざし，指導者に対する暴言，暴力などが見られ，特に女性教員に対してその傾向が強く見られる。

次に，本音以上のことを時と場合を考えずにしばしば発言し，級友から誤解を招くB子がいる。授業中やS T時には思いつくまま教員や司会の同意を求め，話が中断することがしばしばある。この生徒はリストカットすることがあるため，級友もカッターなどを取り上げるほどである。また，級友と交流するのが難しい生徒がこのほかに2，3名いる。他に，昨年度より他国から入学した生徒がいるが，日本語で日常会話をするのが難しく，ほとんど授業時には坐っているだけである。よって学級がまとまって一つのことを成そうとするときは難しいことが予想される。

##### (2) 男女それぞれのグループ化

4月より自由席で給食を食べさせている。その時，男子は大きくA男を中心にしたグループと他の23つに分かれ，女子は3人グループと11人のグループの2グループに分かれている。これは1学期が終わろうとしている時になっても変わらない。昨年度のクラスでは，隔日で男女ともに円になって給食を食べている姿を見ているので，担任は大変驚いている。特に女子は3人グループの方を「彼女たちは勝ち組だからね（B子）」という生徒もいて，交わりが難しいことが予想される。

##### (3) 認められたい生徒たち

1学期当初に行ったQ-U（楽しい学校生活を送るためのアンケート）の結果を見たところ，侵害行為認知群3人（9%），学校生活不満足群6人（18%）で，それらは全国平均より低いことが分かった。しかし，非承認群は17人（51%）ということが分かった。同じ考えをもつ友人とつきあう方がいいため，このあたりにもグループ化が解消されない原因があるのではないかと感じている。ここからも，本学級の生徒の大部分は教員や友人から認められる機会を持つ必要があるのではないかと感じている。

そこで、今回、学級の中に互いに認め合う雰囲気醸成し、生徒の学級内での居場所づくりをするための取組をしたいと考え、構成的グループエンカウンターエクササイズを計画して実践をすることにした。

それから、本実践では前述のA男とB子、更にC男を加えて合計3人を変容を追う生徒として挙げたい。以下にその生徒たちの様子や傾向を記す。

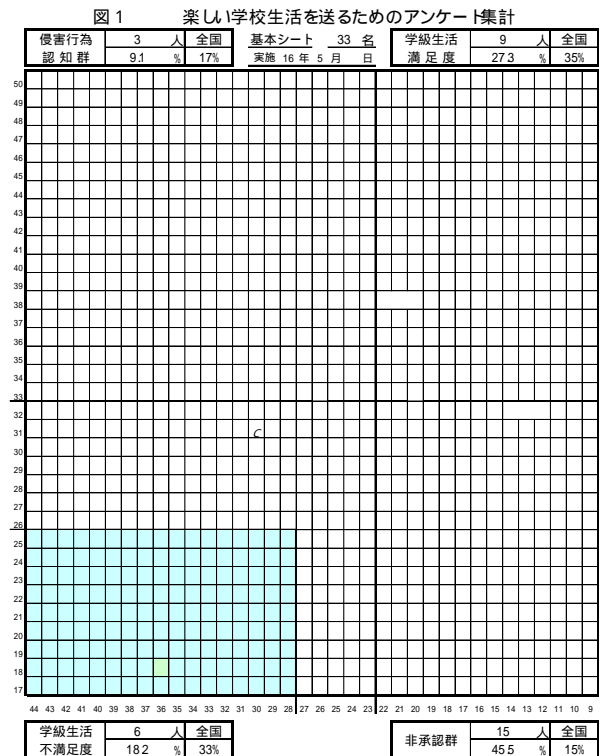
A男... (1)で述べたように大変目立ちたがりである面と周囲から認められていないという気持ちをもっている。素直な感情をもち、一部の友人や部活の下級生には優しく接することができるが、いったん感情が高ぶると教員や性別に関係なく自分を守ろうとして攻撃的になる。

B子... (1)で述べたように、他のことを考えずに自分の意見を思うままに口にしてしまう。そのため、友人と関係を作るのが難しい。自分自身の表記法を作り、自分の世界の中で生活している。学級に所属しながら、よくどこかへ行ってしまふ。

C男...学級のなかでは表に出て活動したり積極的に意見を述べる方ではなく、意思表示することをさせている面が見られる。親しく、限られた友人関係の中で生活している。

担任として、この生徒たちが学級の中で心の交流をする活動を通して人を受け入れ、自分の考えを理解してもらう楽しさや安心感を感じてほしいと願い、本実践に取り組むことにした。

(右上「Q-U」において、A男、B子は欄外に位置する。C男の位置はグラフ中の「C」の部分。)



## 2 実施した場面と時期

月	主な行事	活動の場面	ねらい	内 容
4	入学式 始業式	① 道徳	他者理解	「無人島からの脱出」(本文参照)
		② 学級活動	他者理解 自己理解	「インタビュー活動」(本文参照)
5	修学旅行	③ 道徳	価値観の形成 他者理解	「人生にとって必要なものは」(本文参照)
6	合唱コンクール	④ 学級活動	他者理解	「合唱コンクールを盛り上げてくれる人は 1」 (本文参照)
7	終業式	⑤ 学級活動	他者理解	「合唱コンクールを盛り上げてくれる人は 2」 (本文参照)
		⑥ 道徳	他者理解	「共同絵画」(本文参照)

## 3 実 践

前述のとおり、本実践を進めるにあたり、1学期はとにかく自分の友人のことをよく知り、認める機会を多くもたせたいと考えた。よって、友人の考え方と自分の考え方、友人がもつ様々な価値観と

自分のもつ価値観が違うことを実感させるエクササイズを中心に実施することにした。友人との違いを学び、振り返り活動を通して肯定的な雰囲気づくりができれば、学級での居場所作りの第一歩となると考えたからである。

### (1) 活動1「無人島からの脱出」

#### ア ねらい

- ・ 友人がもつ様々な価値観について触れ、自分と他者は違う考えをもっているということを理解させる。

#### イ 活動の内容

- ・ ねらいをしっかり意識させる。
- ・ プリントに沿って無人島からの脱出に必要なものを5つ選ぶ。
- ・ 4人から5人のグループに分かれる。
- ・ グループで話し合い、グループの意見としてまとめる。
- ・ グループの意見を発表し、学級の中で納得できる意見を選び、振り返りをする。

#### ウ 参加者の様子と課題

本時の授業はもう一人の担任が、学年初めの学級の打ち解けない様子を見て、友人を理解してほしいという願いをもって実施した。(本学級は私ともう一人の教諭の二人担任制である。)生徒たちは配布されたプリントを見て、「本当にこんな荷物があるの?」と言ったり、「皆さんが乗った船が遭難してしまったのです」という説明に「そんなの想像できないよ」といった興味本位の返答をしたりした。進行役のもう一人の教諭は「みんなで考える場面を設定しているから」と答え、生徒たちの反応に少しとまどい気味であった。

しかし、グループの意見として各自の考えをまとめるときにはそのような雰囲気が少なくなり、生徒たちが真剣に話し合う場面が見られた。話し合いでは、筋道立てて話し、少々強引であるが主張する力があっていいと感じられた。生徒の振り返りには「みんなが思っている意見を聞いておもしろいのもあれば、真剣に考えさせる意見もあった」「一人一人の考え方は違う」「いろいろな考え方が出てきて驚いた」と授業者のねらいに迫る言葉が多く出てきて大変うれしく感じた。特に、「いろいろな意見があり、それを話し合うことでさらに練っていくことができると思った。」という感想は互いに認め合う雰囲気をつくる基になるものと考えられる。

グループ発表の際にA男は自ら発表者となって意欲的に活動できた。グループで選んだ道具についてその理由を詳しく説明するので、聞いている側からも「納得した」という声があがった。認められた言葉からA男は納得してこの時間を終わったと思われる。表情も大変生き生きとしていた。しかし、B子は自分の意見をプリントに記入することができたが、積極的に話し合いには参加しなかった。また、グループでまとめた意見をプリントに書かなかった。振り返りには「甘い!オレは他人の意見のみとめるようなやつじゃないんで...ワレ関セズ!!」とあった。ここからは、他人を認めたり、所属したりすることへの抵抗が感じられるが、自分の思いを表現し、友人に伝えることへつなげてほしいと感じた。C男は選択肢に「マッチ ㄩ」,「ラジオ ペンチ」などの言葉を付け加えて遊んでいた。エクササイズに取り組む姿勢について話をし、集団の活動に十分に参加させたいと強く感じた。

### (2) 活動2「インタビュー活動」

#### ア ねらい

- ・ 相互にインタビューをして、他者の体験をきちんと聞いて友人を知ると同時に、自分のことについて話す体験をする。

## イ 活動の内容

- ・ ねらいをしっかりと意識させる。
- ・ 男女混合の4人グループを作る。
- ・ 相互に向かい合い、インタビューする側とされる側に分かれて実施する。
- ・ 5分で交替し、3人にインタビューを行い、3人からインタビューを受ける。
- ・ 振り返りをして、この活動で得られた気づきを分かち合う。

## ウ 参加者の様子と課題

インタビュー用紙をじっくり読ませた後、まず、同性同士からはじめるように指示を出した。生徒たちは、気軽にインタビューしたりされたりするようで、返答が難しい答えについては「ちょっと待って！」という声が聞こえた。次に相手を変えて、異性同士のインタビューを行った。異性になると恥ずかしい質問があったようで「パス」と言う生徒もあった。質問項目の「恋愛では告白する方がいいですか？告白される方がいいですか？」という質問では相手が言った答えに対して「ええっ？そうなの？わたしは言われる方がいいな」などという返答が聞かれるなど、教室が明るい雰囲気になってきた。インタビュー3人目では互いに身を乗り出して聞く組がみられるようになった。

他国から転校してきた生徒に対しては偶然にも優しい男子2人がグループとなり、ゆっくりインタビューしていた。この配慮はこの生徒にとって大変うれしかったようである。もう一人の担当がそばにつきっきりでいたこともあり、あまり返答することはできなかったが、インタビューした内容は少しメモをとることができた。教科の授業ではほとんどノートに書かないが、インタビュー活動を通してふれあう機会がもてたことがよかったと思われる。

生徒の「クラスが始まって初めて初めて女子と話した。さんが日本語を話したので驚いた。」という振り返りからは、級友の新たな面を発見した喜びが伝わってくる。また、「相手の知らなかった面が発見できてよかった」「クラスの人の意外な面を発見した」「明るい人が多い。質問にちゃんと答えてくれる」という言葉からは同じように発見の喜びや受容的な態度があったことが伺える。指導者としても楽しく、成果を感じた取組であった

そんな中で、A男の取組はちょっとふざけていたようだった。インタビューされる側の女子が「A男が勝手に答えを書く」と訴えてきたので「きちんと聞いて正しく書かないと相手を認めたことにならない」と話をした。A男は「わかってます」とはいったものの、その態度にはあまり変わりがなかったようである。しかし、A男の「めっちゃピリピリしてました」「とてもはずかしかった」「人生はとても楽しかった」という振り返りから、本時のまじめに相手に聞き、自分のことを話すという体験には恥ずかしさが全面に出てしまったので勝手に答えを書いたと考えられる。相手のことを意識したということはA男にとってよい体験であったと思う。

一方、B子はインタビューをすること自体は抵抗がなかったようで、本人のインタビュー用紙や振り返り用紙を見ると「うまくできた」「よい雰囲気を訪ねることができた」と書いてあった。逆にインタビューされる側の記録を見ると「×」「パス」という答えが多く、「一つだけ願いが叶えられるとしたら」という質問には「海で………」と書いてあった。感想を尋ねると「ちょっとドキドキした」という言葉が返ってきた。自分の考えを他人に伝えるのに抵抗があるが、前回に比べてB子も相手のことを意識してしっかり聞いたことは成長があったと思われる。

C男は友人とのやりとりが大変苦手で「パス」という回答が多かった。他のグループがインタビュ

ーに割り当てられた時間をいっぱいを使って活動しているのに、あっさり終わって次の指示を待っているという様子であった。インタビュー用紙をよく見ると、ほとんど記入がされていなかった。なぜだろうと振り返り用紙をよく見直すと、「聞かれて困ったことはありませんでしたか？その理由は？」という質問項目で、C男は「C - 1」と答えていた。「C - 1」の質問は「あなたの自分でいいと思うところを教えてください（「なし」はいけません）」であった。C男は自分を肯定的に見ることが難しいのだなあやっと理解できた。自分の考えや感じ方を友人に話すことのできない理由がこのあたりにあるのではないかと感じた。

### (3) 活動 3 「人生にとって必要なものは」

#### ア ねらい

- ・ 友人がもつ様々な価値観について触れ、自分と他者は違う考えをもっているということを理解させる。

#### イ 内容

- ・ ねらいをしっかり意識させる。
- ・ 人生に大切だと思うことを15の選択肢の中から順に6つ選ぶ。
- ・ 4人から5人のグループに分かれる。
- ・ グループで話し合い、グループの意見としてまとめる。
- ・ グループの意見を発表し、学級の中で納得できる意見を選び、振り返りをする。

#### ウ 参加者の様子と課題

まず、人生に大切なものを6項目選ぶことが大変であった。語句自体も難しいので生徒は「信仰」、「名誉」ということは何かと質問してきた。その都度「これこれだよ」と説明したが、実生活になじみのないものであったと思われる。

グループで話し合いになったときには、グループからいろいろ声が聞こえてきて活気のある活動となった。「意見をまとめるときには、取り引きや平均で決めない」という約束がよい雰囲気をもたらしたものと考えられる。聞き手を説得するためについ声が大きくなってしまったのであろう。もう一人の担任もあるグループに入り、「愛」という項目についていろいろ語った。生徒はその言葉を聞いて大変興味をもったらしく、「言い合い」という表現を使ったが、自分の価値観をぶつける楽しさを味わった。すべてのグループでどの選択肢を選ぶか意見がまとまったわけではないことが何よりの証拠である。しかし、それを「自分の意見が反映されなかった」ととる生徒もいた。

振り返りでは、「（友人名）と意見が一致しなかったのでかなりもめた」「相手の意見があるので説得するのは難しい。これからもこういうことがあるのかな」という意見があった。本時のねらいの「価値観の違いを通して友人との考え方の相違をつかむ」ことが達成されたと言えるであろう。同じように、「友達の考えていることがよく分かった」「いろいろなことを学んだ」ということから充実した時間が過ごせたと考えられる。エクササイズの振り返りには「今日の活動は楽しかったですか」という項目があるが、「なかなかおもしろい意見が出て楽しかった」と書いている生徒があり、交流が深まったと考えられる。特定の物事に絞った価値観や考え方を話し合わせるエクササイズは指導者として成果があると感じている。

注目しているA男はすべての項目に「1位」という言葉を書いた。理由の欄には「オレには全部必要」と書いてあった。彼の複雑な家庭環境や生育歴から出た言葉ではないかと感じられた。A男は、グループの話し合いでは積極的に意見を言い、「すべて大切」ということでメンバーともめた。全体

の意見発表の場ではしっかり聞く態度が感じられた。意欲的に意見交換を行ったので、以前のエクササイズの状態と比較して変わってきているという感じを受けた。

B子は意見を言うが、他の意見を受け入れようとはしなかった。このあたりは以前と変わらない態度である。しかし、「どんな具合？」と声をかけたり助言すると大変喜んでいて、エクササイズを行う場合には活動だけでなく、個々への指導・助言が必要であると感じた。ただ、活動の後半はおもしろくなくなったのか消しゴムで遊びだしたが、全体発表の場では「えーっ！やっぱ違うよ」と自分の考えを声に出してよく参加していた。今後の変化に期待したい。

もうひとりのC男は何回も自分のプリントを特定の友人に見せていた。彼は、「友情・友人」という一つの項目だけを選んだ。活動2「インタビュー活動」の実践の様子では、人に聞いたり話したりすることが苦手なことがうかがえた。日常生活においてもC男は友人との接し方に偏りがある。確かに自己開示しなければならないので交流活動は難しいのだろう。C男の振り返り用紙の裏全面には「友情」といっばいに大きく書いてあった。級友との交流を望まないようにみえるが、実は多く求めているのではないかと感じられた。

#### (4) 活動 4・5「合唱コンクールを盛り上げてくれる人は1・2」

##### ア ねらい

- ・ 合唱コンクールに向けて意識を高めさせ、あわせて、コンクールを盛り上げてくれる視点を考え、それにあてはまる友人を探すことによってよい点を認め合う雰囲気を作る。

##### イ 内容

- ・ 4人から5人のグループに分かれる。
- ・ グループで話し合い、どういう人が合唱コンクールを盛り上げてくれるか考える。
- ・ 具体的な姿を短冊に書き、教室掲示する。
- ・ 合唱コンクール後、取組を振り返りながらあてはまる友人を探す。

##### ウ 参加者の様子と課題

「合唱コンクールを盛り上げてくれる人は？」ということで、短冊に書かれたことは「真剣に取り組む」「思いがある」「話し合いに積極的に参加する」「励ます」「だめなところを教えあう」「しっかり声だし」などであった。生徒は、それぞれの思いを1人1枚書いて貼ることができた。実際には練習が盛り上がり、そうでなかったりの山あり谷ありの合唱コンクールの取組であったので、短冊に当てはまる友人を探すのは難しかったようである。

指導者の反省として、まず、学級で中心となる目標を決めることから始めるべきだと感じた。その目標に向かって、グループでどうすればよいか話し合わせれば、より具体的で身近な生徒の姿が挙がるものと考えられる。次に、「あてはまる友人」というより「全員」という視点を生徒に投げかければ、自分の親しい友人という見方から級友一人一人にという見方になると考えられる。生徒は個人個人に小さなことでも評価されると、認められたという気持ちを持つ。一人ひとりがかけがえのない存在であるということを意識させるためにも、言葉の伝え方に工夫が必要である。

また、この合唱コンクールの取組や結果から得られた反省（練習中の態度、合唱のできばえなど）は、かなり印象強く生徒に残り、指導者にも十分伝わってきた。そのため、次の行事である体育大会への取組は、合唱コンクールが終わってからすぐの段階で大変な意欲の高まりを見せている。特に本校のブロック対抗応援合戦には「最優秀を目指す」と、学級で話し合いをする前に目標が決まったような状態になっている。2学期には同じように「体育大会を盛り上げてくれる人は？」で取り組もう

と考えている。生徒の意欲を大切に思い認め合いができるように反省を生かして計画し実践に取り組みたい。

#### (5) 活動 6 「共同絵画」

##### ア ねらい

- ・ 言葉によらないコミュニケーションから、他者が何を言おうとしているのかをつかみ、他者理解の重要性を体験させる。

##### イ 内容

- ・ ねらいを強く意識させる。
- ・ 4人から5人のグループに分かれる。
- ・ 無言で（身振り手振りは可）考えを伝え合いながら一枚の意味のある絵を完成させる。
- ・ 各グループで絵とその内容を説明する。
- ・ 振り返りを実施し、本時の活動で得られた気づきを分かち合う。

##### ウ 参加者の様子と課題

言葉によるコミュニケーションがあるので今までのエクササイズが楽しくできたのであり、今回の「無言」ということにはかなり抵抗があったと観察できた。ほとんどのグループが誰かが1つ何かの絵を描き、他の友人がそこにいろいろなものを描き足すことから始まった。実際に意味のある絵にするのは難しく1つのイラストを描くとそこに色を塗って終わるグループがあった。今までの明るいエクササイズの雰囲気とは違い、表面上は盛り上がり欠ける取組となった。生徒たちの振り返りには、「無言はやだ。しゃべってこそ...」「いつもしゃべりまくっているから今日の無言はきびしかった。」「男子は恥ずかしがり屋だ」という意見が見られた。話し合いを中心に今まで取り組んできたので、会話以外の方法では意思疎通が難しかったものと思われた。授業後、ある生徒に「今日はどうだった？」と声をかけると「話せないのはつまらない」と話した。中には、「この班だといつも発表者になるのでたいへんです」という意見があり、おとなしい人物が集まったグループに対する言葉かけは難しいと感じた。逆に「無言でも身振り手振りで分かるんだな」という意見があり、グループのメンバーを集中して見ていた生徒もあることも分かった。こういう振り返りを生徒に十分伝え、言葉にならないものを大切にして、積極的に友人の考え方を受け入れようとする態度を養わせたいと思う。

気になる生徒たちは以下のような様子であった。

A男は先ほどのイラストを大きく描いたグループにいて、時間終了まで色を塗っていた。「他に描くことはない？」と問いかけると「これでいい」と言い、ひとりですっと取り組んでいた。普段は活動的なので、話ができないということはA男にとって少々つまらないものであったと思われる。

B子は振り返りに「次はひとりで（やりたい）」と書いた。彼女は絵を描くことは好きなのだが、グループの絵画には参加せず、振り返り用紙に自分の好きなイラストを描くことだけに集中してしまった。終わってから「真剣にやればできるもんだ」とグループで描いたものを見て話してくれたが、指導者が意図する「他とのかかわり」はB子にとっては難しいのだと感じた。

C男は「愛」「友情」という言葉を書き、その縁取りをするといった具合であった。他のメンバーは何とか完成させようとしたが、彼は、「絵」を協力して描かなかった。C男は活動3でも「友情」という言葉にこだわりを見せた。なぜ、「友情」を強調するのかを知ることが、彼への声かけのヒントにつながるであろう。

#### 4 効果・課題

クラスで互いに認め合うために、まず、友人の考えや思いを理解することを重点にエクササイズを組んで実施した。1学期だけの実践で効果や成果が大いに認められるとは思わない。しかし、実施したエクササイズの振り返り用紙からは、「人によって発想が違ふと感じた」「みんないろいろな考え方があるなあと感じた」「インタビュー活動では友達関係が深まりました」「相手の知らないことを発見できて、一つかしこくなった」という前向きな表現が多くみられた。ここからは活動の成果が感じられ、継続してエクササイズに取り組んでいけば、学級により雰囲気広がっていくという感じを得た。

指導者としては、どのようにしたら効果的な振り返りにつながるかが課題となっている。今年度はエクササイズの振り返りについては時間内に取り組むことはもちろん、学級に毎日配る学級便り(資料1)にも必ず載せることにした。生徒は配布された通信にはすぐ目を通すので、自分とは違ういろいろな感想や感じ方がより実感されることと思う。毎

#### 資料1 学級便り

日の発行なので苦労は多いが、この取組は今後も続けたい。また、前述のように今年度は2人担任制なので助言しやすいということも挙げたい。週の初めにもう一人の担任と打ち合わせを行い、参加が難しい生徒の予想を立て対応を考えるので授業時に指示しやすいという利点があった。

さて、変容を追う生徒たちの授業での様子や振り返りからは、「他に認められたい」という願いが感じ取れる。A男は、エクササイズの回数を重ねるごとに自分自身を少しずつ表現できるようになり、積極的な意見交換を通してグループで行う活動に抵抗がなくなってきた。B子も、声をかけてほしいとか、エクササイズの結果を知ってほしいという面を持ち、自分の考えを少しずつ友人に表現できるようになった。C男については彼のこだわっている言葉を発見できたことが一つの成果といえる。「友情」が彼にとってどのくらいのウェイトを占めているのか今後も観察を続けたい。他に、友人と考えや思いの交流をすることの苦手な生徒が少なからずいることが明確に把握できた。最初のQ-Uの結果、非承認群に属する生徒の多いことが分かったが、さらに交流活動を継続させる必要性を感じた。

最後に、日常の短い時間でできるエクササイズを実施すべきだったということをも反省として挙げたい。帰りのST時に安心して話せる、自分の思いを伝えられる時間を作れば1授業時間に行うエクササイズの準備になり、ひいては学級の雰囲気作りにつながるだろうと今学期の終わりに気付いた。2学期からの取組に是非生かしたいと思う。

36@32.Kutsu	第13号 発行者 川見 & 古川
-------------	------------------------

#### 道徳 インタビュー活動から

授業参観で道徳を行いました。インタビュー活動、どうでしたか？初めてあの人と話した。なんて人もいたかもしれませんね。今日の活動を通じて、新しい友達についての発見や、気持ちを伝える難しさや大切さを感じてもらえたらと思います。そこで、みなさんに書いてもらった「今日の授業で発見したことや感想、紹介したいと思います。クラスの仲間は何を感じ、どんな感想を持ったのでしょうか。」

前から一緒にいた人のことはもっとよく分かったし、全くしゃべったことのない人のことは少し分かって楽しかった。何となく安心した。普段しゃべらない人と話して恥ずかしかったけど、クラスの仲が深まった。ドキドキした。インタビューは難しい。目上の人とやることもあるから、敬語も使えるようにしたい。3年になってまだ日が浅いけど、2組の『輪』が深まっていい感じだった。みんなおもしろい。男女それぞれにインタビューするという珍しい感じだったので楽しかった。初めてインタビューをやってみて楽しかったし、相手を知ることができたから良かった。普段男子と話さないから良い機会になった。1度インタビューされたかった(笑)。相手にものを伝えるのは難しいと思った。自分の中で分らないものは答えられないし、迷っているものはあやふやになってしまう。初めてしゃべった人もいたけど、しっかりインタビューできた。小さいときに遊んだことを思い出した。(良く見たものも) 友達関係が一層深まりました。また時々で良いですがやって下さい。友達や女子の内面が発見できて楽しかった。相手の知らないことを発見できて一つかしこくなった気分。女子は今一番欲しいものは時間と答え人が多い。人の性格はそれぞれだなと思った。初めて女子と話した。最初から知っている人で発見することができなかった。知らない面が発見できた。女子とインタビューする時は戸惑った。考えが同じだったり違ったりして面白い。顔が赤面した。意外な一面を発見した。楽しくやれて良かった。明るい人が多い。質問にちゃんと答えてくれる。正直ホッとした。しゃべったことがない人としゃべれたし楽しかった。驚く回答をした人がびっくりした。人によっている違う。

#### <参考文献>

- 國部康孝『エンカウンターで学級が変わる 中学校編』(図書文化社, 1996)
- 國部康孝『エンカウンターで学級が変わる2 中学校編』(図書文化社, 1997)
- 國部康孝『エンカウンターで学級が変わる3 中学校編』(図書文化社, 1999)



『平成4年度版 現職教育の歩み』(東郷町立諸輪中学校編, 1992)

『平成5年度版 現職教育の歩み』(東郷町立諸輪中学校編, 1993)